

【目指す学校像】

「明るく豊かな心をもち、生命を大切にし、人間を愛する教育を基盤とした子どもの育成を目指す」
○学びたくなる学校
○通わせたい学校
○誇りに思う学校
○勤めたい学校

【目指す児童像】

○他者を思いやり、助け合える児童 ◎心身ともに健康な児童 ○自ら学ぶ姿勢をもち、よく考えることができる児童 ◎自己の責任をすすんでやり切ろうとする児童

【目指す教師像】

○子どもたちの伸長を喜び、明日の子どもたちとの出会いを大切にする教師 ○互いに協力・尊敬し合い、一致団結して職務の遂行に責任をもってあたる教師 ○「向き合うこと」「自分事として考えること」を重視し、保護者・地域と協働して教育にあたる教師

基本方針・重点目標	中期的目標と方策	今年度の取り組み目標と方策(教育活動の目標と方策及び重点目標と方策)	評価方法	主なアンケート項目に関する評価基準	評定	3学期評定	今年度の実態や改善に向けた次年度の方策
確かな学力	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、学習の基礎となる資質・能力を育成する。	・1人1台の学習用端末でドリル型学習コンテンツや授業支援ツールを用いた発表等、日常的に端末やアプリケーションを効果的に活動した授業を実施する。 ・各教科等で、個別最適な学びと協働的な学びを視点とした校内研究を実施、話し合い活動の設定やICT活用等の工夫や授業改善を行い、学習の基礎となる資質・能力を育む。 ・授業観察(年3回)やOJT研修会(年間10回)を通して日々の授業力向上・改善に努める。	・保護者アンケート ・地域アンケート ・児童アンケート ・各種学力調査 ・取り組み状況	【学習指導】【適正な評価】【授業評価】肯定的な回答が90％以上	A	B	取組目標は全て実施。 児童アンケート「授業の内容は分かりやすい」の項目において、1・2年は89.5％、3年以上は95.4％が肯定的評価であった。保護者アンケート【学習指導】においては87.4％が肯定的評価であった。個別最適な学びを視点とした授業改善や教職員のOJTで得た積み重ねた成果を次年度に発展させ、活用することで、児童の資質や能力を確実に高めたい。
				【学習指導】【適正な評価】【授業評価】肯定的な回答が80％以上	B		
				【学習指導】【適正な評価】【授業評価】肯定的な回答が60％以上	C		
				【学習指導】【適正な評価】【授業評価】肯定的な回答が60％未満	D		
	・学習に主体的に取り組み、学びに向かう人間性を育てるとともに、粘り強く努力する児童を育てる。	・「船田スタンダード(学習編)」を活用し、学習規律・学習習慣を確実に身に付け、主体的に学ぶ意欲をもたせるようにする ・宿題や家庭学習の仕方・取組を明確にし、児童の家庭学習習慣の定着を図る。 ・スモールステップを重視した意図的・計画的な指導を行うとともに、共に学ぶ仲間との協働作業を通じてそれぞれの役割を担わせ、学びの達成感や成就感を味わえるようにする。	・週ごとの指導計画 ・授業時数報告 ・授業観察、研究授業、研修実施率 ・学校評価アンケート ・取り組み状況	【授業評価】【学習指導】【適正な評価】肯定的な回答が90％以上	A	A	取組目標は全て実施。 児童アンケート「すすんで授業に参加している」の項目において、全学年が90％以上。「難しいことでも、最後まで諦めずに取り組んでいる」では、1・2年は89.6％、3年以上は93.1％の肯定的評価であった。保護者アンケート【授業評価】では、94.1％が肯定的評価であった。次年度は、家庭学習習慣のさらなる定着と授業への主体的な参加の姿勢を身に付けさせる指導の充実を図る。
				【授業評価】【学習指導】【適正な評価】肯定的な回答が80％以上	B		
				【授業評価】【学習指導】【適正な評価】肯定的な回答が60％以上	C		
				【授業評価】【学習指導】【適正な評価】肯定的な回答が60％未満	D		
	・指導形態や指導体制の工夫、習熟度別指導や補習教室指導の充実を通した基礎基本の確実な定着	・学習サポーターや支援ボランティアの拡充を図るとともに、人材を効果的に配置し、個別指導や習熟度別指導を充実させる。 ・「八王子市学力定着度調査」の結果を分析し、全ての児童がはちおうじっ子ミニマムに主題される内容を確実に習得できるようにする。 ・3年生から6年生は全児童が国語科・算数科を中心とした放課後の補習教室(船田タイム)を実施する。(週3回)夏季休業中に夏季補習教室を実施する、(3日間)	・保護者アンケート ・地域アンケート ・児童アンケート ・各種学力調査 ・習熟度別指導実施率 ・取り組み状況	【適正な評価】【学習指導】【学級経営】肯定的な回答が90％以上	A	B	取組目標は全て実施。 八王子市学力定着度調査では、前年度とほぼ同様の結果となった。国語・算数ともに市の平均よりも低く、次年度は、基礎基本の確実な定着に向けて、指導形態や指導体制をさらに工夫する必要がある。特に習熟のための時間を増やすことや学習支援による個に応じた指導。低学年における少人数指導の実現など、補習的な内容が必要となる。
				【適正な評価】【学習指導】【学級経営】肯定的な回答が80％以上	B		
				【適正な評価】【学習指導】【学級経営】肯定的な回答が60％以上	C		
				【適正な評価】【学習指導】【学級経営】肯定的な回答が60％未満	D		
豊かな心	・道徳科における道徳的諸価値を深化。また、特別活動も含めた教育活動全体を通じた自己のよりよい生き方を考えさせる指導の充実	・道徳教育全体計画及び別業を基にした教育活動全体を通した道徳教育を計画的に実施し、運動会や学習発表会・社会科見学等、様々な行事においてもその意義や道徳的諸価値を意識した指導の充実を図る。 ・異年齢集団による縦割り班活動を重視し、望ましい人間関係を築く力やリーダーシップ・フォロワーシップを育て、自己のよりよい生き方について考えられるようにする。 ・「船田小スタンダード(生活編)」を全教職員で共通理解し、基本的な生活習慣の定着を図る。児童が自ら考えて生活指導上の課題に取り組める指導の工夫を組織的に進める。	・保護者アンケート ・地域アンケート ・児童アンケート ・道徳授業、特別活動 ・授業実施率 ・取り組み状況	【人権教育】【生活指導】肯定的な回答が90％以上	A	A	取組目標は全て実施。 児童アンケートでは、「目標をもつこと」「きまりを守ること」「学校が楽しい」で3年以上の肯定的評価は90％以上であった。保護者アンケート【人権教育】【生活指導】でも同様に肯定的評価が90％以上となり自己肯定感や達成感をもたせる教育の成果が高まっている。しかし、保護者アンケートのキャリア教育に関する項目での肯定的評価は60％となっており、「よりよい生き方」教育で改善策が必要である。
				【人権教育】【生活指導】肯定的な回答が80％以上	B		
				【人権教育】【生活指導】肯定的な回答が60％以上	C		
				【人権教育】【生活指導】肯定的な回答が60％未満	D		
	・いじめにおける組織的な未然防止・早期発見・早期対応の徹底 ・不登校における関係諸機関との連携と個々の実態に応じた多様で適切な支援の充実	・学校いじめ対策委員会を中心に「いじめを絶対に許さない」を合言葉として、毎週水曜日の「学校いじめ対策委員会」でいじめ案件だけでなく気になる児童についても情報を共有し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための手立てを講じる。 ・「八王子命の大切さを共に考える日」を7月1日に設定し、校長の講話や命の教育に関する授業を行い、学校全体で命について考える取り組みを行う。 ・不登校コーディネーターを中心に個票システムを活用して教職員で不登校児童の早期把握に努めるとともに情報共有し、スクールカウンセラーやSSWと連携して組織的に対応する。	・保護者アンケート ・地域アンケート ・児童アンケート ・委員会、研修会等実施率 ・取り組み状況	【いじめ防止対応】【生活指導】肯定的な回答が90％以上	A	B	取組目標は全て実施。 児童アンケート「いじめや仲間外れをしないで友達と仲良くしている」の肯定的評価が1・2年生で89.6％、3年生以上は98.3％であった。保護者アンケートでは82％という結果であり、10％程低い。週一回のいじめ対策委員会で一人ひとりの児童の状況に寄り添い、次年度より、大きいいじめは減少したが、保護者と情報連携を強め、さらなる改善を図りたい。
				【いじめ防止対応】【生活指導】肯定的な回答が80％以上	B		
				【いじめ防止対応】【生活指導】肯定的な回答が60％以上	C		
				【いじめ防止対応】【生活指導】肯定的な回答が60％未満	D		
	・一人ひとりの教育的ニーズに的確に応える特別支援教育の充実	・校内研究における個別最適な学びやユニバーサルデザインの視点から見た授業改善を図る。 ・校内委員会が中心となり、特別支援コーディネーターを活用しながら、特別支援教室や家庭と連携して学校生活支援シートや連携型個別支援計画を作成する。 ・特別支援教育に関する研修を計画・実施し、個に応じた支援の在り方や授業の中での具体的実践方法について教育の理解を深め、一人ひとりの児童にとってよりよい支援を行う。	・保護者アンケート ・地域アンケート ・児童アンケート ・校内研修実施率 ・取り組み状況	【特別支援教育】【環境整備】肯定的な回答が90％以上	A	B	取組目標は全て実施。 保護者アンケート【特別支援教育】では肯定的評価は82％であった。特に、数値ではなく、記載のアンケートでは多くの保護者から学校に対して一人ひとりの児童への対応の仕方について感謝の言葉をいただいている。次年度は、特別支援教育がコミュニケーションの力と同質の意味をもつとともに、その必要性を学校だよりや特別支援だより、保護者会等で啓発していく。
				【特別支援教育】【環境整備】肯定的な回答が80％以上	B		
				【特別支援教育】【環境整備】肯定的な回答が60％以上	C		
				【特別支援教育】【環境整備】肯定的な回答が60％未満	D		
<重点目標> 健康な心と体	・保健指導・体力向上・食育など、総合的に健康教育を推進することで、生涯にわたり心身共に明るく健康な生活を送るための基礎を培う。	・週一回の異学年交流活動「元気タイム」を設定し、児童が運動に積極的に親しみ、異年齢集団の中で互いに体を動かす喜びを感じできるようにする。 体力向上と運動の日常化を図る「体力向上週間」を設定し、持久走週間や大縄週間、短縄週間の取組を実施する。自己の成長へ向けた取組を評価し、支援する。 ・保健主任や食育主任が中心となり、教科指導における授業実践を計画し、心身健康な生活に必要な知識を深める共に、実践意欲を高められるようにする。	・保護者アンケート ・地域アンケート ・児童アンケート ・体力テスト ・教員による自己評価	【特色ある学校づくり】肯定的な回答が90％以上	A	A	取組目標全て実施。 保護者アンケート【特色ある学校】では、89.3％が肯定的評価であった。「楽しく学校に通っている」の項目では保護者・児童アンケートで共に90％以上となっており、元気に明るく学校生活を送っている様子が伺える。次年度は、健康な心と体の育成をさらに明確にし、取組の改善を図る。
				【特色ある学校づくり】肯定的な回答が80％以上	B		
				【特色ある学校づくり】肯定的な回答が60％以上	C		
				【特色ある学校づくり】肯定的な回答が60％未満	D		
小中一貫教育の推進	・義務教育9年間を見通した長房中学校グループ(長房中、船田小、長房小)における小中一貫教育の推進	・長房中グループにおいて、「学習を大切にする子」「自他を大切にする子」「体を動かすことを大切にする子」を目標に9年間を見通してグループの全教員で義務教育終了後、「社会の中でよりよく生きようとする子」の育成を目指す。 ・年間3回の小中一貫の日を設け、小中相互の授業参観及び意見交換により連携を深める。また、6学年の中学校授業体験や部活動見学体験交流会を行う。児童会と生徒会が協働し、八王子サミットで「自分たちの未来について」発表を行う。	・保護者アンケート ・地域アンケート ・児童アンケート ・小中連携行事実施率 ・取り組み状況	【小中一貫教育】【特色ある学校づくり】肯定的な回答が90％以上	A	B	取組目標全て実施。 保護者アンケート【小中一貫】の肯定的評価は91.3％であった。年度ごとに教職員や児童・生徒の交流活動が定期的に行われるようになっている。次年度からは年間計画に基づく、小中合同の取組を実施し、より児童・生徒が主体となり、将来、地域に貢献できる資質につながるような改善を図る。
				【小中一貫教育】【特色ある学校づくり】肯定的な回答が80％以上	B		
				【小中一貫教育】【特色ある学校づくり】肯定的な回答が60％以上	C		
				【小中一貫教育】【特色ある学校づくり】肯定的な回答が60％未満	D		
保護者・地域との連携	・学校運営協議会を要とした保護者・地域との連携の推進	・学校運営協議会を年11回確実に開催し、三校合同開催も検討する。 ・「地域の子どもは地域で育てる」の意識を保護者・地域と共有し、青少年対策長房地区委員会やPTAと協働した三校地域清掃活動・三校交流会に参画する。 ・学校運営協議会企画の行事「おむすび大作戦」(年6回)「星空を見るタベ」「カタクリを見る会」(地域・保護者参加型)「座禅会」「漢字検定」「自転車安全教室」(地域参加)を推進する。	・保護者アンケート ・地域アンケート ・児童アンケート ・協議会開催実施率 ・取り組み状況	【地域推進】【情報提供】肯定的な回答が90％以上	A	B	取組目標全て実施。 地域・学校運営協議会委員の【地域推進】については90％以上の肯定的評価であった。保護者アンケート【情報提供】の肯定的評価は93.2％を得ることができた。様々な取組については、学校運営協議会の委員と学校支援ボランティアが企画運営に主体的に力を発揮し、地域や保護者の反応も高評価であった。次年度は、学校支援組織図を明確にし、より組織的な活動を図る。
				【地域推進】【情報提供】肯定的な回答が80％以上	B		
				【地域推進】【情報提供】肯定的な回答が60％以上	C		
				【地域推進】【情報提供】肯定的な回答が60％未満	D		
職務・職場環境の改善	・全教職員のライフワークバランスの充実と職場環境の整備	・自己申告等の機会を活用し、教職員の職務意識やキャリアプランを確認し、3年先まで見据えた組織全体のマネジメントを意図的・計画的に行う。 ・教職員の業務を精選、軽減するとともに、職場環境の整備・教職員の意識改革を推進する。 ・学校運営協議会で地域・学校・保護者の役割を共通理解するとともに、学校だよりや保護者会等で教職員の働き方改革・職場環境の充実の推進について周知し、保護者や地域の方々の理解を図る。	・保護者アンケート ・地域アンケート ・児童アンケート ・教員の在校時間調査 ・取り組み状況	【経営方針】肯定的な回答が90％以上	A	A	取組目標全て実施。 保護者アンケート【経営方針】の肯定的評価は87.9％であった。また、教員の在校時間時間調査では、残業時間が月50時間を越える教員が減少し、学校評価では業務改善で100％の肯定的評価であった。次年度はウェルビーイングの合言葉をもとに、学校・保護者・地域の役割を明確にしながら、3者が協働して「子どもたちの成長」を中心に据えた学校教育の実現を図る。
				【経営方針】肯定的な回答が80％以上	B		
				【経営方針】肯定的な回答が60％以上	C		
				【経営方針】肯定的な回答が60％未満	D		